

JISA 革命プロジェクト

パラリンピック支援プロジェクトの第2回会合が開催される

7月6日、パラリンピック支援プロジェクト（座長：小林賢也 東京海上日動システムズ(株)取締役）の第2回会合が開催された。

今回は、『JISAとして何が出来るか』として、本プロジェクトの方向性について検討した。議論は、「パラリンピックを盛り上げる」、「観戦者をサポートする」、「大会後も障害のある人が活躍出来るインクルーシブな社会を築く」の3つの方向性について、それぞれ“雇用”、“技術・サービス”、“人”、“場”、“資金”の5つの切り口について、各委員よりアイデアを出し合い、それについて意見交換した。その結果、2020年に向けて次の4つの柱について具体化していくこととなった。

- (1) 大会・競技を盛り上げる取組
- (2) 競技者・観戦者をICTと人でサポートする取組
- (3) 障がいに対する理解の進んだ社会・会社を築く取組
- (4) 人と資金を動員（ボランティア等として）するための取組

また、検討チームとしての見聞と知見を増やしていくため、日本パラリンピック委員会及び日本財団パラリンピックサポートセンターを訪問することとなった。

(手計)

⇒ 知ってますか？

パラリンピックとは身体障がい者と視覚障がい者のための大会、聴覚障がい者のための大会はデフリンピック、知的障がい者のための大会はスペシャルオリンピックと分かれています。

JISA 革命プロジェクト

「JISA Spirit」に基づき、ソフトウェアはすべての産業の基盤として社会を変えていく（Software Defined Everything）ことを具体化するプロジェクト。パラリンピック支援プロジェクトと中学校デジタル化プロジェクトが設置されている。

これらプロジェクトにより、ソフトウェアでどうビジネスを創るかを実践し、従来の受託型ビジネスを提案型ビジネスへと転換していく契機とすることを目指す。